

身体拘束廃止に向かって

特別養護老人ホーム 小鹿苑

杉本昌之 望月勇佑 楠真由美
平成23年7月25日

小鹿苑 拘束対象者

- ※ A：89才 女性 麻痺無く両手多動
抜去時は救命受診対応
高齢により胃瘻造設不可能
 - ※ B：88才 女性 麻痺無く両手多動
車椅子移乗時間が増え、活発となる
胃瘻は家族が望まない
- *二名共、見守り時以外ミトン使用*

小鹿苑が抱える問題 (アンケートを取った理由)

- ※ 経管栄養利用者のミトン使用
積極的な関わり、離床
- ↓
- 意識レベルのUP⇒多動⇒抜去
- ※ 職種間の考えの相違
- ↓ 行き詰り・・・
- 他の施設でも同じ問題を抱えているのでは
どのように対応しているのか

アンケート内容

- 1：入所定員に対しての経管栄養利用者の人数。

またその内の胃瘻増設者の人数。
- 2：チューブを抜去する可能性のある方の人数。
- 3：身体拘束を行なっている方がいるか。
- 4：拘束の方法。
- 5：拘束を廃止した取り組み。成功例、失敗例。
- 6：医療職と介護職による認識の違いがあるか。

アンケート内容・結果

実施31施設 ⇒ 返信23施設

1：入所定員①に対しての経管栄養利用者の人数②。またその内の胃瘻増設者の人数③。
結果①2040人 ②184人 ③130人
経管栄養者のうち71%が胃瘻
胃瘻の方のみ入所・・・1施設

2：抜去する可能性のある方の人数
結果 42人(23%)

アンケート内容・結果

- 3：身体拘束を行なっている方はいるのか
結果 14人 (8%)
- 4：拘束の方法
結果 ミトン 11人 つなぎ 2人
手首ベルト 1人

アンケート内容・結果

5：拘束を廃止した取り組み。

結果・チューブ固定位置の工夫

- ・抱き枕
- ・手に何かを握る
- ・胃瘻造設、腹帯
- ・経流時間の短縮
- ・見守り
- ・抜去したら再挿入という考え

拘束しているが

- ・時間を決めて最短時間の拘束

アンケート内容・結果

6：医療職と介護職による認識の違いがあるか。

結果 なし 8施設

認識がある施設の場合

看護師：拘束は当り前の意識が強い
拘束による安全重視

介護士：拘束の意識が強い
拘束の理解が薄い
再挿入に対する安易な考え
看護師より「何かあったら
どうする」と言われる

まとめ

× 他施設より学んだ事

- ・施設一丸となつての取り組み
- ・胃瘻造設の提案・勧め

× 今後の展開

- ・目標の共有
- ・職員間のコミュニケーション、情報共有
- ・継続的な取り組み